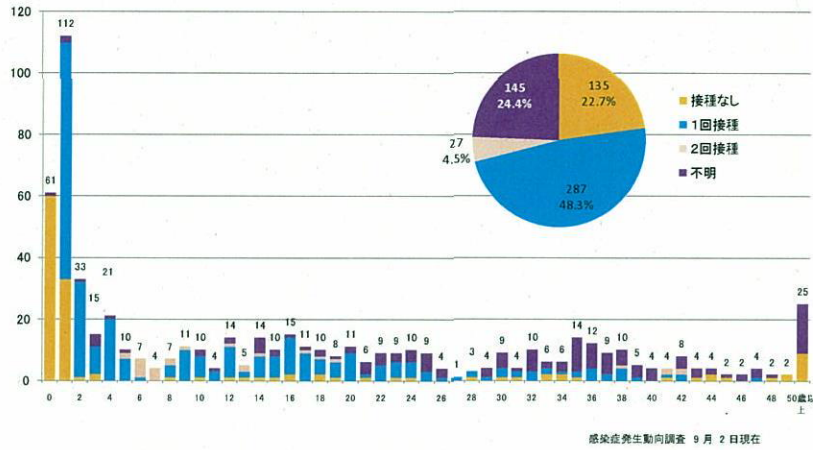




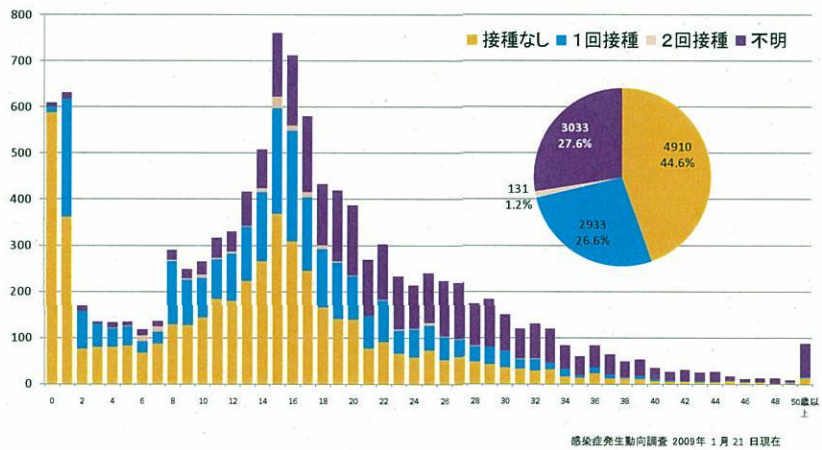
年齢別接種歴別麻疹累積報告数 (n=594) 2009年第1-35週



感染症発生動向調査 9月2日現在



年齢別接種歴別麻疹累積報告数 (n=11,007) 2008年第1-52週



感染症発生動向調査 2009年1月21日現在

まとめ

- 日本の麻疹発生状況は、麻疹の定期予防接種が導入されて以後は、減少傾向にあった。
- 以前は乳幼児を中心とした流行だったが、2007年は10代後半から20代を中心とする年代で、大きな流行を認めた。
- 全数報告となった2008年には年間で、11,007例が報告されたが、今年（2009年）は35週現在594例と大幅に減少している。
- 年齢別報告数を昨年と比較すると、今年（2009年）は10代を中心とした年代の割合が激減した。
- 今年のような発生状況では、臨床症状のみから麻疹と診断することはしばしば困難である。現在、全国の衛研で麻疹のPCR検査を行える体制が整っているため、保健所、衛研の協力の下、検査診断で全例を確実に診断することが望まれる。